

# 滋賀県精神保健 福祉協会だより

第15号  
**SHIGA**  
精神保健福祉協会

2002.3.31

編集発行：滋賀県精神保健福祉協会  
事務局：滋賀県精神保健福祉協会  
〒525-0072 草津市笠山八丁目4番25号  
滋賀県立精神保健総合センター一気付  
TEL 077(567)5250 FAX 077(567)5033

平成十三年年度 合同事業

## 「探しに行こう 心にできた隙間を― 埋めてくれる何かを。」 心の健康を考える講演と広場と映画の1日」 第一部「心の健康づくりを考える県民のつどい」事業報告

講演

さいクリニック院長 崔 鳳 春

二〇〇二年三月十七日、栗東市の「栗東芸術文化会館さきら」で「心の健康を考える講演と広場と映画の1日」が開かれました。その第一部では「現代青年の心とからだ―そのサインをどう受けとめるか」という題で神戸女学院大学教授の生野照子先生の講演を伺うことができました。先生は大阪市立大学医学部で小児心身症の臨床を長く続



講演「現代青年の心とからだ―そのサインをどう受けとめるか―」  
神戸女学院大学 教授 生野照子先生

けておられ、特に摂食障害の領域では非常に高名な方です。

心身症に対する生野先生の視点は決して否定的ではなく、患者さんやご家族が心身症に向き合いそれを通り抜ける経験は苦痛に満ちたものであるけれど、彼らにとつて深い意味があるという理解を話されました。このお話では文学においても悲劇が深い感銘を与えるということを連想させられました。治療が最終する時、苦難を乗り越えて成長した彼らはひとまわりもふたまわりも成長しており、先生には彼らがとても大きく見えるとの言葉も印象深く残りました。これらのお話は心身症の青年達に対する生野先生の慈しみに満ちた眼差しがにじみ出ていると感じました。

ロンドンでご研究された時の経験から日本と英国の文化の違いを考察され、英国の「個性を育てる」という文化に対し、日本では「良い子でいなくてはならない」という土壌が強く、これが青年期のさまざまな心身症の土壌にもなっているというお話を前置きとして、

スライドを用いたご講演に移られました。ミイラのようにぐるぐる巻きされた人間「ああ・あ・あ・あ」と絶句のみがいつまでも続く文章など、先生が臨床でお会いになられた青年達の手になる描画や文章が豊富に示されました。これら一枚一枚のスライドは非常に迫力があり、その若者の辛苦、苦痛に直に触れるかのような感覚に陥り、大きなインパクトを受けました。これらのスライドを供覧されながらのお話は力があり、知らず知らず引き込まれていきました。

たくさんのお話が印象に残りましたが、そのひとつに困難を抱えた青年達への対応のお話がありました。彼らとご家族がその困難から抜ける過程を「心を耕す」という比喻でご説明され、土を耕すとさまざまな虫が出てくるように、心を耕す時にも直面することを避けていたさまざまな嫌なものが出てくる、そしてそれを直面する力を養っていくことが求められるというお話をされました。この話もまた印象深いイラストと共にご説明頂いたので大変心に残りました。

当日は短い時間だったため、残念ながら密かに楽しみにしていた自動グループや家族会についてのお話はありませんでした。しかし長く困難な領域に関わってこられたにもかかわらず、肯定的で力強い姿勢を続けられる生野先生のお話には、私のみならず会場の方々も大いに勇気づけられたのではないのでしょうか。

## 第二部「障害者のつどい」事業報告

— 交流の広場 —

滋賀県精神障害者を守る連合会 鳩の会 高岡清隆



出し弁当、つくだ煮、パン、クッキー、ガム、飲み物等、自主製品には各作業所の作品の一つ一つに日頃の取り組みのようすや工夫が見られる。参加者は思い思いに各店の前で足を止め、注文と即売が始まった。

掲示コーナーでは、各作業所を紹介するユニークでカラフルな絵や写真を使ったパネル（十四ヶ所参加）が掲示され、参加者は各作業所の個性あふれる内容の紹介に見入っていた。

交流の「広場」は、十七日のイベントに参加した人達が中ホール前のホワイエ（ロビー）で、滋賀県精神障害者作業所連絡会加盟作業所が出店した作品や掲示パネルを見たり、アカペラやバンド演奏を楽しみながら、お互いの交流を深める広場にしようというのである。イベントの参加者は、三〇五人であった。

午前中の講演が終わって、中ホールから参加者が次々にホワイエに出て来た。ホワイエでは、各作業所（十ヶ所参加）の職員が出店した自主製品等が展示されている。木工、織物、編物、アクセサリー、がん具、和紙等の作品や炊き

## 第三部「精神保健福祉知識普及啓発事業」報告

— 「十七歳のカルテ」上映会 —

滋賀県市町村保健婦(士)協議会 代表 友岡昌代

今年度、知識普及啓発事業部会では、こころの健康づくりや精神障害についての正しい知識等の普及啓発を行うことを目的に、平成十四年三月十七日（日）栗東芸術文化会館「さきら」に

おいて、冊子「ココロの元気を取り戻すメンタルヘルスのススメ」の配布と併せて映画「十七歳のカルテ」の上映を行いました。

かねてからの、当協会の事業に当事者の声を反映させていきたいとの熱い思いから、当事者より好評を得ていました「十七歳のカルテ」の自主上映にこぎつけました。一人でも多くの方が、こころの健康について関心を持ち、精神障害についての理解を深めてもらえよう、レンタルビデオではなく、劇場用の迫力ある映像をご覧いただきました。

当日、「さきら」の中ホールは、満員御礼とはいきませんでした。三名の方の参加がありました。

主人公の女の子達は、人は誰だかって不完全な存在であるということに改め、教えてくれて、肩の力が抜けたように思います。また、不安定な感情や自

分を消してしまいたいぐらい辛い気持ちに共感された方も多かったのではないのでしょうか。

スザンナが、院内で親友達によって支えられ、自分を取り戻したように、人間はお互いに救い合える「暖かい存在」であると思いました。

こころの病気や当事者の苦しみを分かち合い、地域の皆が共に身近なところで助け合える世の中になる契機づくりとして、今後多くの人にこの映画を見て欲しいと思いました。

映画を見終えた後、暖かな気持ちと爽やかな気分を満たされたのは、私だけでしょうか？本場にコーヒーを飲みながら皆で感想を語り合いたかったですね！

最後に、ご覧いただけなかった方に、ちよつと映画のご紹介を…

舞台は一九六七年。ごく普通のアメリカのティーンエイジャー、十七歳のスザンナ・ケイセンは、混乱し、不安に苛まれ、アスピリンを大量に飲んで自殺を図り、精神科に入院。そこで診断された病名は、「境界性人格障害」。病棟で出会った風変わりな女性たちは、



彼女の親友になるだけでなく、見失っていた自分自身を取り戻す道を明るく照らし出してくれました。大人への階段を上りかけた少女達が自分を表現しようとしてあがき、感情的、肉体的に揺れる姿が描かれています。原作はサンナ・ケイセンの回想録。自身、人に明かしたことのなかった精神病院での二年間の入院経験をスケッチ風に綴り、退院から二十五年後の一九九三年に出版され、即座にベストセラーになっています。

春うらら

つばめが低く

雨知らせ

流星

会員の声コーナー

● 精神分裂病の名称が変更すると言っています。変りに統合失調症と名付る様に言われていますが、私はそんな問題よりもケアマネージャーや介護員が不足している様に思います。そして障害者手帳にて交通費バス代が半分になる事を願っています。

「探しに行こう 心でできた隙間を」 埋めてくれる何かを。  
心の健康を考える講演と広場と映画の一日

滋賀県精神神経科医会 会長

榎林理一郎

さる三月十七日(日) 午前十時から午後四時まで、栗東文化会館「さくら」中ホールにて、標記のタイトルで当協会の今年度合同事業が開催されました。

皆さんが思い思いに独創的な店を出して作品展示・即売などを行い、またボランティアの方々も参加して歌や演奏会が行われました。

今年度の協会の事業は、年度前半の事務局体制が整わなかったこともあり、その全ての準備を九月以降から始めるという変則的な状況の中で企画されました。そのため、今年度は「県民のつどい」「障害者のつどい」「知識普及啓発事業」「調査研究部会」の各部会が合同して一日のイベントを行うことになり、盛りだくさんの企画となりました。

第三部(午後)は、以前から協会の集まりである利用者の方が「みんなに見てもらえたらいい映画なんやけどな」といって話題になっていた「十七歳のカルテ」を自主上映することになりました。知識普及啓発活動部会がこの映画資料の準備を担当しましたが、これは、県の委託事業とは別に協会独自の企画をしたいという協会会員のこれまでの願いが初めて実現したもので、その意味でも意義のある映画会となりました。

当日は、まず大川会長の挨拶に続いて栗東市長の祝辞(代読)を戴いた後、第一部(午前)は「県民のつどい」部会が主催する「現代青年の心とからだ?」そのサインをどう受けとめるか?」と題した講演会が行われました。講師には神戸女学院大学教授生野照子先生をお招きして、摂食障害の青年たちの豊富な臨床経験から現代の青年たちの抱える心の危機とからだへのサインについて興味深い講演を戴きました。

また、知識普及啓発活動部会では、パンフレット「メンタルヘルスのススメ」も作成、配布しました。調査研究部会は、企画全体の調整役とアンケート調査を行いました。

第二部(昼)は、「障害者のつどい」部会の主催する「交流の広場」で、会場前の空間「ホワイエ」にて、約二時間 にわたり県下の精神科共同作業所の

当日の参加者は三〇〇名を超える盛況となりました。参加者のアンケート結果でも皆さんに好評を戴き、企画者一同胸をなでおろすと共に、当日参加していただいた多くの皆さんに心からの感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

「第4回 精神保健ボランティア全国大会 in しが」がこの秋、開催されます!

「精神保健ボランティア」活動は他のボランティア活動に比し歴史的に浅く、精神に障害を持つ人たちが「自分達も当たり前地域で暮らしていきたい」と声を出し、それに呼応した市民達が「精神に障害を持つ人も持たない人も、誰もが当たり前暮らせる地域づくりを」という理念のもとに「精神保健ボランティア」としての活動を始めました。

当事者・家族・ボランティアが同じ大きさで、同じ高さで、同じテーブルで活動している「滋賀」でのつどいが、精神保健の裾野を広げていく小さな波へと動いていくきっかけになることを期待して、この大会を開催します。

参加対象は精神に障害を持つ人たち、またその家族。専門職や関係者を含めた精神保健ボランティア。現在、心に悩みをかかえている人、またそんな人がそばにいる人。精神保健に関心のある一般市民、どなたでもです。内容等詳細は次回お知らせできると思います。ご期待下さい。

〈第1日目〉平成14年11月26日(火)

午後1時～ ピアザ淡海・午後6時～ 大津プリンスホテル

〈第2日目〉平成14年11月27日(水) 午前10時～ びわ湖ホール

【お問い合わせ】

滋賀メンタル友の会・事務局  
滋賀県立精神保健総合センター内  
TEL077-567-5010

# 伝言板

## 社会福祉法人 若竹会からのお知らせ

【チャリティーバザー】物品募集中！ ●こんなものをお待ちしています。(タオル、洗剤、日用品、食器類、カバン、衣類、おもちゃ など)  
品物の受付は春夏秋冬(通年)いつでもOKです。(但し、土・日・祝日は除く)お電話をいただければ、引き取りにお伺い致します。  
(注)ごめんなさい。このようなものはお断りしています。(電機製品、大型家具類)

### 【講演会】

◎日 時 平成14年5月12日(日)午前11時～ ◎場 所 エストピアホテル(草津市西大路町4-32)  
◎内 容 「花の笑顔に乾杯」松居一代さん

◎問い合わせ先 社会福祉法人 若竹会 草津市山寺町657-1 TEL 077-565-0178 FAX 077-569-4790

## てんかん医療講演会

◎日 時 平成14年4月21日(日)午後1時～ ◎場 所 滋賀県立女性センター 2F 研修室A (JR近江八幡駅南口下車 徒歩8分)  
◎講 演 「子どもの発達とてんかん」 国立療養所 紫香楽病院 小児科医長 鳴戸敏幸先生 (てんかん学会認定医)  
会員外の方は、500円の資料代をお願いします。  
◎主 催 (社)日本てんかん協会 滋賀県支部

## 第8回 滋賀メンタル友の会 総会のご案内

◎日 時 平成14年4月24日(水)午後1時30分～午後4時 ◎場 所 滋賀県立精神保健総合センター・研修室  
◎内 容 1:00～1:30 受付・会費納入 1:30～2:30 総会 2:45～4:00 「脳外傷を取りまく現状について」 当事者・家族の立場から  
「脳外傷」交通事故や高所からの転落等のあと、完治したはずなのに人格が変容した、今まで出来ていた事ができなくなったなどの症状がでることから最近は大きく取り上げられてきた「障害」です。これは頭部に強い力が加わったとき脳は頭蓋骨の反対側にぶつかり、衝撃を受けた部分だけでなくその対角線上の脳も大きな損傷を受けるからだと言われています。当事者・ご家族の立場からの現状報告、是非聞いて下さい。

◎問い合わせ先 滋賀メンタル友の会・事務局 滋賀県精神保健総合センター内 TEL 077-567-5010

## 第29回 近畿ブロック(滋賀)大会 並びに 滋賀県断酒同友会25周年記念大会

◎日 時 平成14年4月28日(日)午前10時30分～午後3時30分 ◎場 所 守山市民ホール 大ホール  
◎内 容 体験発表、記念講演  
◎問い合わせ先 滋賀県断酒同友会 事務局 〒524-0001 守山市川田町1698 TEL・FAX 077-583-4741

## 「こころの会」例会のご案内

◎日 時 平成14年5月5日(日)午後1時30分～3時30分 ◎場 所 滋賀県立女性センター 研修室B  
◎内 容 現在、悩んでいること、薬のこと、病気のこと等  
◎問い合わせ先 「こころの会」蒲生郡日野町木津192 TEL・FAX 0748-52-2918 (この会は、患者会です。)

## サタデーピア総会 & 研修会

◎日 時 平成14年5月23日(木)午後1時30分～4時30分 ◎場 所 彦根市燦バレス 2F会議室  
◎内 容 1:30～2:30 総会 3:00～4:30 研修会「彦根市の精神保健福祉サービス」  
◎問い合わせ先 NPO法人サタデーピア 彦根市小泉町569-1-202 TEL・FAX 0749-23-6679

## 第6回 精神保健福祉協会

◎日 時 平成14年6月23日(日)午後1時～4時30分 ◎場 所 近江八幡市鷹飼町80-4 滋賀県立女性センター 視聴覚室  
◎内 容 総会 特別講演 等  
◎問い合わせ先 滋賀県精神保健福祉協会 〒525-0072 滋賀県草津市笠山八丁目4番25号 TEL 077-567-5250

会員数 平成14年3月31日現在

一般会員	個人会員	324名
	団体会員	46団体
賛助会員	個人会員	22名
	団体会員	5団体

事務局職員が交代します。わずか半年の間ではございましたが、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。中島かをる



### 編集後記

◆3月17日「心の健康を考える講演と広場と映画の一日」が開催されました。今日の青少年をめぐる問題を、参加者一同でともに考える機会をもちました。生野先生のお話は、先生のお人柄や診察スタイルが良く表れていました。温かさや包容力が伝わってくる魅力的な講演でした。

◆平成12年には青少年の事件が相次ぎ、いわゆる「17才問題」が大きく取上げられました。少年犯罪の低年齢化、凶悪化が指摘され、その結果平成13年4月に改正少年法が施行されました。刑事罰適応年齢を14才に引き下げる、審判での事実認定手続きに検察官や弁護士を関与させること、さらに被害者への情報開示などが盛り込まれました。

◆少年刑法犯の検挙人数は、S58年以降は長らく減少傾向にあったのに平成8年以降増加に転じたため騒がれました。しかし犯罪白書によれば、実際には平成11年、12年と連続して減少しているようです。これまでの枠組みで理解できない出来事は起こっているようですが、統計の数字だけでその意味を読み解くことは困難です。

◆「17才問題」というのは何だったのでしょうか。ジェームススティーンの「理由なき反抗」も17才でした。いつの時代にも社会の役割期待からずれていく若者の動きはありました。青年期は自己同一性を獲得する時期といわれていましたが、今は日本の社会全体で、目指すべき同一性が揺らいでいる状況です。

◆今年の春は早い、お彼岸に桜が咲いた、などという東京を中心にした情報がマスコミを通して流されています。彦根でも例年より少し早いですが、それ程極端ではありません。日々大量に流される情報にふりまわされずに、私達の地域に根ざした独自の情報を発信できたらと思います。(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

この会報誌は、財団法人 滋賀県民間福祉振興財団の助成のもと発行できました。